

各 位

2008 年 5 月 14 日

国際マネジメントシステム認証機構

PCI DSS オンサイト監査業務を開始

～クレジットカード産業向けの情報セキュリティ監査サービスを日本国内において展開～

ISMS/ISO27001 の認証機関である国際マネジメントシステム認証機構(東京都港区、代表:瀬田陽介、以下 ICMS)は、クレジットカード産業向けの国際情報セキュリティ基準である PCI DSS (PaymentCard Industry Data Security Standard) のオンサイト監査業務を開始いたします。

PCI DSS は国際カードブランド 5 社(VISA、JCB、MasterCard、American Express、Discover) が共同で策定したクレジットカード情報に関するセキュリティ基準であり、同 5 社が設立した米国 PCI データセキュリティ基準審議会(PCI Security Standard Council、以下 PCI SSC) により発行、管理されております。ICMS は PCI SSC と QSA(認定セキュリティ評価機関) 契約を締結し、国内の大型のクレジットカード加盟店及びカード決済代行事業者、データ処理会社などのカードサービスプロバイダに対してオンサイト監査を開始いたします。PCI DSS は米国ではすでにウォルマート・ストアーズ、エクソンモービル、マイクロソフトなど大手企業が多数準拠しており、普及浸透しているフェーズであります。国内では未だその認知度は低い状況です。個人情報保護の観点からも最もセンシティブな情報であるクレジットカード情報を、どのように保護するかは基準はクレジットカード会社、加盟店、カードサービスプロバイダにとって喫緊の課題といえます。国内の事情として、QSA として認定されている機関が 1 社のみという現状があり、ICMS が、QSA としてオンサイト監査を実施することにより PCI DSS とその監査制度の啓発普及を図っていきたいと考えております。

PCI DSS は、すでに情報セキュリティマネジメントシステムとして国際認証基準となっている ISMS/ISO27001 との親和性も高く、国内の ISMS 認定機関である財団法人日本情報処理開発協会(以下 JIPDEC)からも ISMS 管理策と PCI DSS の監査項目の対比表(※1)が発行されております。ICMS は ISMS/ISO27001 認証機関としての優位性を発揮し、QSA と ISMS 両方の資格を保持する審査員による監査を実施することにより、連続日程によるブリッジ審査(※2)を実現することが可能となります。それにより監査対象企業は、システム部門などの対応担当者の負荷を軽減するばかりでなく審査、監査に関する総支出を削減することができます。また監査対象企業が、その顧客や消費者から信頼を受けるシンボルとして、ISMS/ISO27001 認証機関の実証された品質により監査証明書や監査証明マークを発行する予定です。

ICMS は、本年中に国内にて 100 社のオンサイト監査の受審企業が存在すると想定し、初年度は 10 社前後の顧客に QSA としてオンサイト監査を実施する目標です。

注 1 『クレジット産業向け ISMS ユーザズガイド』(2006 年 3 月 JIPDEC より発行)に記載

<http://www.isms.jipdec.jp/doc/JIP-ISMS116-10.pdf>

注2 ブリッジ審査とは、異なる審査／監査基準の重複する項目を同時に評価し、複数の審査、監査をほぼ同時に実施する手法。

【国際マネジメントシステム認証機構 会社概要】

商号 国際マネジメントシステム認証機構株式会社
代表者 代表取締役社長 瀬田 陽介
所在地 東京都港区芝 1-11-11 住友不動産芝ビル 3F
業務内容 情報セキュリティに関する監査又は認証サービスのご提供
認定 財団法人日本情報処理開発協会 (JIPDEC) から JIS Q 27001 (ISO/IEC27001) の
認証機関として認定 (ISR010) されている。

【本サービスに関するお問い合わせ】

国際マネジメントシステム認証機構
業務管理グループ 担当:椎名
TEL:0120-796-115
gyoumu@icms.co.jp

【本リリースに関する報道関係者様のお問い合わせ】

国際マネジメントシステム認証機構
業務管理グループ 担当:海老原
TEL:0120-796-115
info@icms.co.jp

以上